

### 3 広域推進一覧

区分	推進事項 (関連事業)	担当者	活動年次				
			3	4	5	6	7
担い手	・地域農業・農村を支える多様な担い手の育成	田中主査 釣谷主任 川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専主 杉村専普 水沼普指 田中普指 新井係長 秋松主査 山黒普指 荒木普指		○			
情報・ クリーン・ 有機	・情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信	内田主査 福屋主任 及川専主 杉村専普 水沼普指 秋松主査 荒木普指		○			
	・安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進	内田主査 福屋主任 及川専主 水沼普指 秋松主査 山黒普指		○			
高付加価値化	・農商工連携による農畜産物の生産販売の振興	安田主査 福屋主任 杉村専普 斉藤専普 藤塚専普 山黒普指		○			

### 3 広域推進事項

#### (1) 担い手

活動年次	令和4年度	担当班	本所広域班
推進事項と 主な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業・農村を支える多様な担い手の育成</li> <li>①管内広域組織の活動強化による活性化</li> <li>②新規就農者の経営能力向上（るもい農業基礎ゼミナール）</li> <li>③女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成</li> <li>④農業法人の持続的な経営の安定</li> </ul>		
対 象	留萌管内担い手		
担当者	田中主査 釣谷主任普及指導員 川口係長 高橋主査 工藤主査 及川専門主任 杉村専門普及指導員 水沼普及指導員 田中普及指導員 新井係長 秋松主査 山黒普及指導員 荒木普及指導員	連携 機関	管内8市町村、JA 留萌振興局、遠別農 業高校、留萌指導農 業士・農業士会、管 内農業委員会
関連事業	地域担い手対策事業、次代を担う女性農業者の活躍サポート事業		

#### 1 活動のねらい

##### (1) 管内広域組織の活動強化による活性化

###### ア 青年農業者組織の活性化支援

各組織の活動の活発化を図り、留萌管内4Hクラブ連絡協議会の運営体制及び活動内容の充実につなげる。また、4Hクラブ連絡協議会の行事（夏季交流会・ファーマーズトークin RUMOI等）について、会員以外の青年農業者や新規就農者の積極的な参加を推進し、4Hクラブ等青年農業者組織への加入促進を図る。

##### (2) 新規就農者の経営能力向上

###### ア 新規就農者の育成・確保

新規就農者を対象に「るもい農業基礎ゼミナール」を開講し、「栽培管理技術」の習得と「地域（市町村）を越えた仲間作り」による新規就農者の地域への定着を図る。地域係と連携し巡回指導及び経営相談等のフォローアップを併せて行い、栽培管理技術の定着と経営管理能力向上を図る。また、「るもい農業基礎ゼミナール」を開講することにより、対象となる新規就農者の把握を行い関係機関との情報共有を図る。

##### (3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

###### ア 若手農業者の育成確保

地域係と連携し、若手女性農業者グループ活動を活性化し個々の意欲の向上を図る。また、研修会や女性ネットワークオロロン等世代が異なる女性農業者との交流を通して、経営管理能力の向上と将来、留萌農業を担うリーダーの育成を目指す。

##### (4) 農業法人の持続的な経営の安定

###### ア 農業法人の安定化支援

管内農業法人の抱えている問題を解決するため、法人への聞き取りによる情報収集及び農業法人セミナー等研修会の開催により、構成員や従業員のスキルアップを図り、地域の核となる法人の育成につなげる。

###### イ 農業法人のネットワーク化

管内農業法人間の情報共有・意見交換の場を設け、各法人個々が抱える課題を解決し、持続的な経営の安定化を図る。また、定期的及び継続的に情報交換、交流できる体制を整備する。

## 2 活動内容と結果

### (1) 管内広域組織の活動強化による活性化

#### ア 青年農業者組織の活性化支援

##### (ア) ファーマーズトーク inRUMOIの開催

4 Hクラブ等青年組織や青年農業者が日頃行っている取組発表や情報交換、交流の場として平成31年度より「ファーマーズトーク inRUMOI」を開催している。令和3年度より2日間の開催で、遠別農業高校との交流を図っている。令和4年度は、全道初の試みとして農業高校との共同開催という形で、遠別農業高校の校内実績発表会とファーマーズトーク inRUMOIを同日に行い、4 Hクラブと遠別農業高校が共同で行えるプロジェクトを模索する場とする等、前年より更に進んだ形で開催した。

参集範囲を留萌管内4 Hクラブ連絡協議会会員に限らず、農業基礎ゼミナール生や興味のある青年農業者、北海道アグリネットワーク役員および上川宗谷留萌ブロック会員と幅広く声かけを行い106名の参加となった。併せてZoomによるWEB配信を行った。

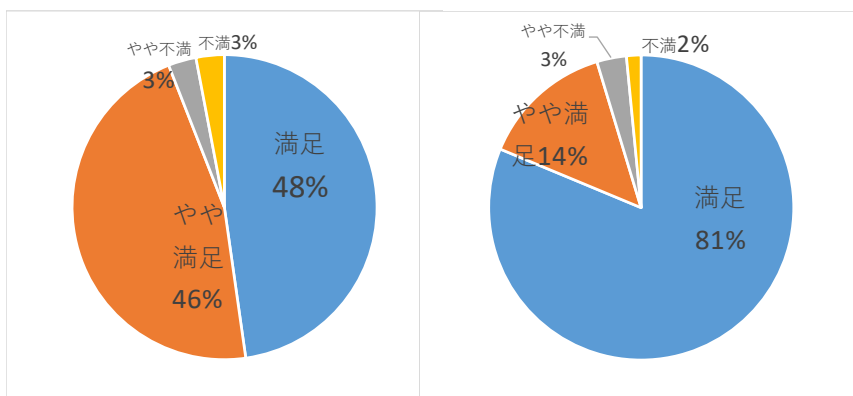
1日目に取組紹介やアグリメッセージに加えて遠別農業高校の校内実績発表会を行い、2日目は青年農業者交流研修会として、一次産業の魅力を発信しているYouTuber「ダイキの大冒険」の佐藤大樹氏（株式会社HOKUSAN-TV\_代表取締役）を講師として招き、「覚悟とは」をテーマに講演をいただき、その後「YouTuberとして留萌の魅力を発信するとしたら」をテーマに青年農業者、遠別農業高校生、関係機関職員参加によるグループワークを行った。

2日間を通して質疑応答や意見が活発に出され、終了後のアンケートにおいても9割以上が「満足」「やや満足」（図1）と答えるなど盛況に終了した。

共同開催した遠別農業高校からも、「地域に開かれた高校を目指しており、今後もこのような機会があれば是非一緒に行っていききたい」との意見をいただいた。

また、取り組み紹介の中から北海道青年農業者会議へ3課題派遣することができ、3課題とも入賞、全国青年農業者会議へ1課題派遣することができた。全道青年農業者会議の出席人数もファーマーズトーク inRUMOIに改名して以降最大の12名となった。

ファーマーズトーク inRUMOI開催の結果、次年度以降のプロジェクト活動や今後の行事に向けて前向きな意見が出されるなど、留萌管内4 Hクラブ連絡協議会の活動やプロジェクト活動に対して意欲が高まる結果となった。



#### <主な感想>

- ・自分の中の農業に対する情熱を再確認できた。（青年農業者）
- ・多くの農業者が発表できる場として重要だと思う。（関係機関）
- ・発表し合い意見やアドバイスを多くもらえて良かった。（高校生）

図1 アンケート結果（左図：1日目・右図：2日目：グループワーク）※回答：1日目67名・2日目64名



写真1 取り組み紹介の様子



写真2 グループワークの様子



写真3 集合写真

#### (イ) 夏季交流研修会の開催

各青年農業者組織の学習・交流の他、各青年農業者組織への加入促進を目的に、会員以外の青年農業者や新規就農者（るもい農業基礎ゼミナール生）との交流を図るため夏季交流会を開催した。本年度は、従来行っていた交流会の他、さつまいもや早出しスイートコーン、いちごなど特色のある所得補完作物に挑戦している会員のは場視察を行った。

その結果、会員15名、他管内青年農業者4名、農業ゼミナール生9名、関係機関15名が出席し、出席者の95%が満足と答えるなど活発な研修交流会となった。

また、夏季交流会をきっかけに連協の活動に興味を持った青年農業者2名が留萌4Hクラブ連絡協議会に加入した。

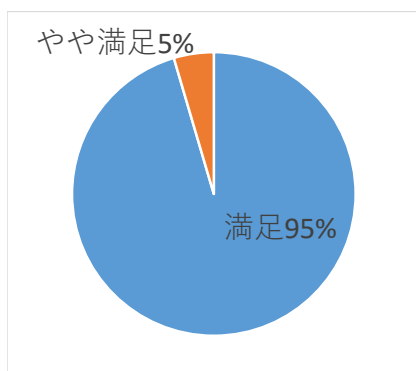


写真4 ほ場視察の様子



写真5 交流会の集合写真

図2 アンケート結果（交流研修会の満足度）

※回答：出席者（4H会員・農業基礎ゼミナール生・他管内青年農業者）22名

#### (2) 新規就農者の経営能力向上

##### ア 新規就農者の育成・確保

##### (イ) るもい農業基礎ゼミナールの開催

新規就農者（就農5年目以内の就農者、女性農業者、法人従業員）を対象に、地域係と連携し「るもい農業基礎ゼミナール」開講し（表1）、「栽培管理技術」の習得と「地域（市町村）を越えた仲間作り」による新規就農者の地域への定着を図った。また、本年度は全体講座として、JAるもいの協力の下、経営を勉強する第一歩として「クミカン制度の概要」と「クミカン個票の見方」について、3コース合同での研修会も併せて行った。

全体講座は、冬期間でも参加しやすいよう本所支所に各々会場を設けてDOWKAIで2会場をつなげる形で開催し、本所9名、支所4名の計13名が参加（前年度のゼミナール生を含む）した。

クミカン個票自体見たことがない受講生も多かったが、質問も多くあがり、終了後のアンケートの結果からも経営への関心の高さが伺えた（表3）。

表1 令和4年度るもい農業ゼミナール開講状況

		中分校	南分校	畜産分校
		耕種コース	耕種コース	酪農コース
対象者数（名）		9	3	1
開催日	1回目（名）	4/27 (6)	5/17 (3)	5/11 (1)
	2回目（名）	6/29 (8)	7/20 (6)	5/18 (1)
	3回目（名）	9/1 (7)	9/2 (3)	10/31 (1)
	※3回目補完		9/8 (2)	
	4回目（名）	11/21 (7)	10/31 (3)	11/9 (1)
		3/15 (7)	—	—
全体講座（名）		12/7 (13)		

( ) 出席者数

表2 るもい農業基礎ゼミナールの目的

- ★地域農業の基礎的な技術や知識を習得する
- ★農業や経営の仕組みを知る
- ★農業者として目標・夢を持てるように
- ★農業・農村の良さを理解し、農村生活を楽しむ
- ★たくさんの人と知り合う（仲間づくり）



写真6 ゼミナールの様子①  
(中分校)



写真7 ゼミナールの様子②  
(南分校)



写真8 ゼミナールの様子③  
(全体講座)

<ゼミナール生の主な感想>

- ・水稻の育苗をよくわからないまま任されてされていたが、勉強になった。分からないところを聞ける場ができてうれしい。(中分校)
- ・すべての講義において時間が足りないくらいよく学ぶことができた。(南分校)
- ・ゼミナール受講をを機会に、もっと勉強したくなった。(畜産分校)

表3 留萌農業基礎ゼミナール全体講座に関するアンケート抜粋 ※回答：農業基礎ゼミナール生11名

研修の理解度	今後全体講座で取り上げてほしい内容 (複数回答含)		
・全然理解ができなかった	0 票	・農作業機械の整備・点検	4 票
・あまり理解ができなかった	0 票	・農作業安全	1 票
・どちらともいえない	2 票	・農業経営関係	6 票
・まあまあ理解できた	7 票	・スマート農業関係	6 票
・理解できた	2 票	・その他	1 票

(イ) るもい農業基礎ゼミナール合同研修会

地域を越えた仲間作りと地域若手農業者とつながる機会をつくることを目的に、るもい4Hクラブ連協と合同で夏季交流研修会を開催した。地域係を中心に参加を呼びかけ、農業ゼミナール生9名が参加した。アンケート結果では「またこのような企画があれば参加したいですか?」の問いに、全員が「是非参加したい」と答え、アンケートに答えた7人中5人が「4Hクラブ活動に興味を持った」と答えた。

表4 留萌管内青年農業者夏季交流研修会に関するアンケート抜粋 ※回答：農業基礎ゼミナール生7名

Q またこのような企画があれば参加したいですか	Q 4Hクラブを知っていましたか? また、今回の研修会を通して「留萌4Hクラブ連絡協議会」の活動に興味を持ちましたか?		
1 是非参加したい	6 票	1 知っている・興味を持った	2 票
2 できれば参加したい	0 票	2 知っている・興味は無い	1 票
3 内容による	0 票	3 知らなかった・興味を持った	3 票
4 参加しない	0 票	4 知らなかった・興味は無い	0 票
無回答	1 票	無回答	1 票

(3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

ア 若手農業者の育成

若手女性農業者を対象に「留萌の野菜」をテーマに、地元で生産されている小麦や野菜の栽培について学ぶとともに、地元産素材を使用したパンの試作を行うことにより農産物の高付加価値化について理解を深めることを目的に研修会を開催した。

研修会の内容は女性後継者「アグリ女子のわいわい茶話会」のメンバーに意向調査を行い検討・決定した。

また、研修会には留萌管内農村女性ネットワーク‘オロロン’の会員にも参加の呼びかけを行い交流を図った。

参加した若手女性からは「留萌管内の野菜の実態がわかった。地場野菜でプロ並みのパンができてうれしい」「次は牛の勉強がしたい」といった声が聞かれた。また、‘オロロン’の会員からも、「自分達のグループでも研修会がしたい」「若い世代と交流ができて良かった」といった感想が上がり、若手女性の学習意欲の向上と世代が異なる女性農業者との交流といった目的が達成された。



写真9 加工研修の様子



写真10 世代を超えた交流



写真11 野菜の栽培を学ぶ

#### (4) 農業法人の持続的な経営の安定

留萌管内の農業法人運営の安定や地域農業の課題解決等の情報交換の場を目的に「留萌管内農業法人研修会」を開催した。

本年度は、令和3年度から行っている管内農業法人個票作成時に聞き取りをした内容及び令和3年度に行った「留萌管内農業法人情報交換会」のアンケート結果から、「雇用」をテーマに研修会を行った。

遠別農業高校校長とハローワーク職員を講師に招き、遠別農業高校からは高校生の就活のルールや遠別農業高校における生徒達の就農希望、求人の実態等について、ハローワークからは新規学卒者の採用のポイントと求人票の書き方について講演いただいた。

参加した法人からは「新卒者の採用ポイントについて聞けて良かった」「高卒者の就活のルールが厳密であるのは知らなかった」等の声が聞かれ、終了後のアンケートにおいても92%が「非常によかった」「よかった」と答えるなど満足度の高い結果となった。

また、令和3年度「留萌管内農業法人情報交換会」にて留萌管内農業法人のネットワーク化について問いかけを行いアンケートを取った結果、出席法人の79%がネットワーク化が必要と答えことから、「留萌管内農業法人会設立」についての意見交換を行った。

若手の法人より、「法人同士のつながりをもっと強くしていきたい。地域を守る農業法人が繋がる組織、共に勉強していける場が必要」「コミュニケーションをとる場が欲しい」との声が上がった。また、「会を作るには協力してくれる人が必要、普及・振興局・農協・役場に協力をお願いしたい」との意見より、今後法人のネットワーク化に向け協議の場を設けることとした。



写真12 講演の様子



写真13 意見交換

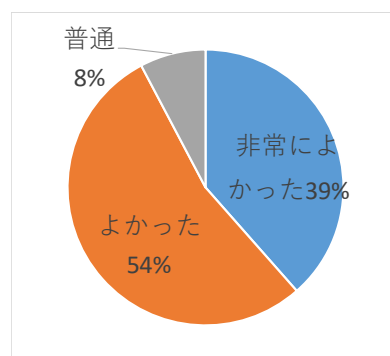


図3 アンケート結果（講演内容）

### 3 今後特に参考となる事項

#### (1) 他管内・北海道アグリネットワーク役員との交流による4H活動の活性化

夏季交流研修会やファーマーズトークinRUMOI等留萌4Hクラブ連絡協議会の行事に、他管内青年グループや北海道アグリネットワーク役員に出席呼びかけ交流を行った。

夏季交流会では他管内の青年農業者と交流することで、留萌管内とは違う農業経営のあり方や技術などを学ぶことができ、青年の経営管理能力及び技術向上に繋がった。

ファーマーズトークinRUMOIでは、令和3年度全国青年農業者会議にて農林水産大臣賞を受賞した大雪さんろく倶楽部のプロジェクト発表を交流記念発表として聞かせてもらったことで、プロジェクトにおける課題の見つけ方、取り組み方、まとめや発表方法など活動の参考になり、プロジェクト活動に対する意欲が向上し、全道青年農業者会議での入賞に繋がった。また、高校生とのグループワークに北海道アグリネットワークの役員にも参加してもらったことで、まとめる場面での進め方やリーダーシップの取り方を学ぶことができ、青年個々の能力向上や4H活動の活性化に繋がった。



図3 他管内青年グループとの交流による成果

### 4 今後の対応

#### (1) 管内広域組織の活動強化による活性化

ア 青年農業者組織の活性化支援

(ア) ファーマーズトークinRUMOIの開催

引き続き、留萌管内4Hクラブ連絡協議会の活動支援を行う。ファーマーズトークinRUMOIや交流会の開催により各青年組織の会員同士の交流に加え、会員以外の青年農業者や新規就農者（るもい農業基礎ゼミナール生）との交流を図り、各青年農業者組織への加入促進を図る。

#### (2) 新規就農者の経営能力向上

ア 新規就農者の育成・確保

(ア) るもい農業基礎ゼミナールの開催

引き続き地域係と連携し各分校・コースを開催し、ファーマーズトークinRUMOIへの参加も促す。また、開催に当たっては、「るもい担い手対策推進会議」にて農業基礎ゼミナールの開催周知や対象の状況などについて情報共有し、地域一体となった若手農業者の育成を進めるため、関係機関の協力、サポート体制作りに向け意識啓発を行う。

(イ) るもい農業基礎ゼミナール合同研修会

「るもい農業基礎ゼミナール」の開催による若手農業者の技術習得及び仲間作りを進めるため、広域的な合同研修を開催し（ファーマーズトークinRUMOI等4Hクラブ連協合同で開催）、出席を促していく。

#### (3) 女性農業者の経営資質の向上及びリーダー育成

経営管理能力の向上と留萌農業を担うリーダーの育成を目標に、若手女性を対象とした研修会や交流会の開催を行う。

#### (4) 農業法人の持続的な経営の安定

法人経営の安定化に向け、法人セミナー・法人情報交換会の開催する。

法人会の設立（ネットワーク化）に向けた準備・検討を行う。

(2) 情報・クリーン・有機  
ア 情報

活動年次	令和4年度	担当班	本所広域班	
推進事項と 主な目標	・情報の共有化と蓄積情報の有効活用及び情報発信 ①情報の共有化の整理・活用 ②外部への情報発信力の強化 ③農業情報の定期発信			
対 象	所内及び留萌振興局管内			
担当者	内田主査、福屋主任普及指導員、及川専門主任、杉村専門普及指導員、水沼普及指導員、秋松主査、荒木普及指導員	連携 機関	・管内8市町村 ・JAるもい ・留萌振興局	
関連事業				

1 活動のねらい

(1) 情報の共有化の整理・活用

共有ドライブの活用方法については、定期的な見直し（利用ルール・フォルダ構成等）をしながら、効率的に使用できるように改善していく。また、蓄積された共有情報は、保管場所の整理や周知を徹底し、利用しやすい体制を整える。

(2) 外部への情報発信力の強化

必要に応じて職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催し、積極的な情報入手・発信ができるように体制整備を行う。

(3) 農業情報の定期発信

地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信を行う。そのために随時ホームページ、普及センターだよりの内容等の検討を行う。また、農業者以外にも積極的に情報発信を行い、地域農業に対する理解を深めていく。

2 活動内容と結果

(1) 情報の共有化の整理・活用

ア 共有ドライブの見直し

年度初めの推進会議で、共有ドライブの利用方法等について見直し・検討を行った。特に今年度は、共有ドライブの仕様が変わり、使用ルールの見直しを行った。

イ 効率的な活用に向けての検討

フォルダ構成の変更やフォルダの加除を都度行っている。また、共有ドライブの容量が大幅に増量され、データが蓄積しやすいようになったため職員の要望に応じ、過年度分のデータも蓄積し活用しやすい構成とした。

ウ 蓄積情報の整理や利用体制の整備

CD、DVD等に蓄積しているデータ等の整理等を行い、リストを作成し職員が利用しやすい体制を整備した。

(2) 外部への情報発信力の強化

ア 職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催

- ・スマート道庁が始まり、様々なアプリ等が利用可能となったため、使用方法等の周知を行った（随時）。
- ・職員のスキルアップ・業務の効率化を図るために情報・CMS研修を行い（本所：7/7、



支所；9/9）、所内の共有フォルダの利用ルールやホームページ作成方法等を周知した。

### (3) 農業情報の定期発信

ア 地域ニーズに即したタイムリーな農業技術情報の発信と内容の検討（ホームページ、普及センターだより等）

#### (ア) ホームページの更新

農業技術情報を発信する手段として、ホームページの更新を複数の担当者で更新している。

定期的な「地域の話題」や「技術情報」の発信を心がけた。

今年度の掲載記事数（表1）については、「地域の話題」はイベントの開催がなかなかできず（コロナ禍のため）、掲載記事数は減少した。

また、R3年度より「技術情報」は整理（重複情報の取り止めなど）を行い、掲載記事数は減っているが、ホームページのアクセス数は維持している（図1）。

#### (イ) 普及センターだよりの発信

昨年度は、普及センターだよりの発行を休止していた。今年度は、第1回推進会議で検討し、人事異動の情報や活動計画を周知することは必要という意見が多く、発行した。

今年度の普及センターだよりの発行は7月に行った。また、次年度の発行について検討を行い、人事情報や地域の話題を掲載し発行する計画とした。

表1 ホームページ掲載記事数の推移

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
地域の話題	36	49	48	27	34
技術情報	0	61	84	50	48

※R4年度は3月末まで集計

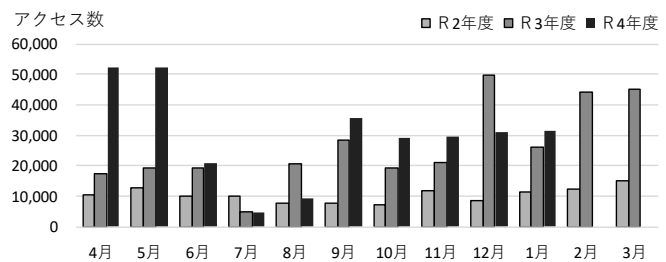


図1 HPアクセス数（R5年1月末）までの推移

## 3 今後特に参考となる事項

スマート道庁が始まり、情報発信や情報処理の仕組みが変わってきている。計画的なスキルアップや情報伝達研修を行うことができ、前もった対応が重要であることを再確認できた。

## 4 今後の対応

### (1) 情報の共有化の整理・活用

- ・蓄積情報の整理や利用体制の整備を行い、職員が活用しやすい体制を検討する。

### (2) 外部への情報発信力の強化

- ・多様化している各種アプリやソフト（動画編集等）について、職員向けの研修会の開催やマニュアルを整備していく。
- ・職員向けの各種研修会（ホームページ作成、動画編集、各種アプリ等）を開催し職員のスキルアップを図る。

### (3) 農業情報の定期発信

- ・ホームページでの定期的な「地域の話題」や「技術情報」の発信を継続する。

(2) 情報・クリーン・有機  
イ クリーン・有機

活動年次	令和4年度	担当班	本所広域班
推進事項と 主な目標	・安全・安心なクリーン農産物生産及び持続可能な農業の推進 ①クリーン・有機農業の情報収集 ②リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進		
対 象	留萌振興局管内		
担当者	内田主査、福屋主任普及指導員、及川専門主任、水沼普及指導員、秋松主査、山黒普及指導員	連携 機関	・管内8市町村 ・J A るもい ・留萌振興局 ・遠別農業高校 ・留萌G A P 推進協 議会
関連事業			

1 活動のねらい

(1) クリーン・有機農業の情報収集

管内の有機栽培、特別栽培、YES!clean栽培等クリーン農業の情報収集を行うことで現状と課題を整理するとともに、クリーン農業に関心のある農業者に対し情報提供を行い、推進の足掛かりとする。

(2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

G A P 導入支援に向けた所内体制を構築し、農業者及び関係機関に対するG A P の導入支援を行う。また、各種研修会で農業者や関係機関・団体が集まる場を活用し、G A P や農場H A C C P の啓発・情報交換を行う。認証が目的ではなく、経営の中に取り組みことで、持続可能な農業を推進する。

2 活動内容と結果

(1) クリーン・有機農業の情報収集

ア 有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援  
本所・支所地域係と連携して、生産者リストや取り組み内容の把握・確認を行った(表1)。

令和3～4年度に有機認証取得が3戸(酪農)あったため、その取組や概要について聞き取りを行った。特別栽培、YES!cleanの新規登録は無かった。

南留萌支所管内の特別栽培米2グループでは、土壌診断に基づいた施肥管理の実施や病虫害発生予察に基づく防除の実施について、特別栽培米の安定生産へ向けた支援を行った。

表1 管内の登録状況

項 目	件 数
有機JAS	9件(9戸)
特別栽培農産物	7件(3戸、3団体)
YES!clean	18件(18団体)
エコファーマー	30件(30戸)

(2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

ア G A P への取り組みの啓発・支援

(ア) 遠別農業高校への支援

令和3年度に改めてA S I A G A P (Ver2.3) (米(玄米)、青果物(たまねぎ、ばれいしょ)の3品目の認証取得をした。今年度は維持審査(11月8～9日の2日間)が行われた。

普及センターは、主に担当指導教員に対しG A P 指導への助言や書類整備の支援を行った。

今回の生徒は、GAPの審査を受けるのが初めてであったが、質問に対して活発に回答し、実際の出荷作業も手順どおり問題なく終えることができた。

しかし、いくつかの是正すべき箇所（例として記録簿関係、交差汚染のリスク評価が不十分など）が指摘され、今後対応すべき課題も残った。今後も、遠別農高と連携して課題解決に向かって検討していくことが必要である。



写真1 審査時の様子



写真2 ばれいしょ袋詰め作業



写真3 今年も安全・安心なお米が収穫できました

#### (イ)管内GAP推進状況

食品政策課の「地域におけるGAP推進会議」及び「国際水準GAPモデル実践事例」について、事前担当者打合せ(6/28)を行い、モデル事例対象の選定及び計画を検討した。

昨年度までは、増毛町特別栽培米生産研究会代表をモデル対象として取り組み、GAP認証取得へは至らなかったものの、GAPへの知識・理解の習得は達成した。支所地域係により労働安全・環境等に関する啓発活動を継続している。

今年度のモデル事例の対象とした天塩町のTMRセンターにおいて研修会を行い、GAP手法を用いた労働安全や労務管理についてJAと連携して、構成員及び従業員に理解・実践を啓発した。結果、各種機械作業免許等の取得が促進され、労働安全に対するTMRセンターの意識を変えることができた。

また、ホクレンや中央会、管内GAP推進会議(2/20)を行い、管内GAPの状況を確認し、JAも担当者と打合せを行った(3/2)。留萌管内では積極的な認証取得は推進しないが、生産工程では「GAPをする」ことを啓発していくことを再確認した。

#### イ 関係機関及び農業者主体の勉強会等活動支援

現段階では、要望はない状態であり、今後要望等を把握し勉強会等の活動支援を行う。

### 3 今後特に参考となる事項

今年度の取組で、思いのほか農業機械の作業免許等の取得が進んでいないことがわかった。法人やTMRセンターへ働きかけ、今後も継続した啓発活動が必要である。

### 4 今後の対応

#### (1) クリーン・有機農業の情報収集

有機栽培、特別栽培等の情報収集及び導入支援について、継続して情報収集を行い生産者リストや情報を更新していく。

#### (2) リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進

##### ア GAPへの取り組みの啓発・支援

「地域におけるGAP推進会議」及び「国際水準GAPモデル実践事例」を進めていく。

##### イ 関係機関及び農業者主体の勉強会等活動支援

GAP推進協議会等と連携しながら勉強会等の支援を行っていく。



写真4 普及センターから労働安全について



写真5 JAから労災保険について

### (3) 高付加価値化

活動年次	令和4年度	担当班	本所広域班
推進事項と 主な目標	農商工連携による農畜産物の生産販売の振興 ・ 留萌管内特産品の創出 ・ 高付加価値化グループ及び高付加価値化志向者の能力向上		
対 象	留萌振興局内高付加価値化グループ、高付加価値化志向者		
担当者	安田主査、福屋主任普及指導員、 杉村専門普及指導員、斉藤専門普及指導員 藤塚専門普及指導員、山黒普及指導員	連携 機関	・ 管内8市町村 ・ 管内JA ・ 留萌振興局 ・ 管内商工業者 ・ 上川農試技術普及室
関連事業	多様な野菜産地づくり促進対策事業、6次産業化ネットワークづくり支援事業		

#### 1 活動のねらい

##### (1) 地域農畜産物による特産品開発支援

遠別町で行われている農商工連携による色素抽出用紫さつまいも栽培について、安定生産と新たな用途の創出に向け支援を行う。また、高付加価値化を志向する意欲ある農業者の取組み支援や加工グループの高齢化で失われていく伝統技術の伝承機会の創出を行う。

##### (2) 魅力ある農畜産物の生産支援

留萌管内の農畜産物の地産地消の拡大とその他魅力ある農畜産物の掘り起こしを行うとともに商工業者ニーズの把握と農業者の連携や新たに生産に取り組む農業者の支援を行う。

##### (3) 高付加価値化事例の収集

管内事例の集積及び更新を行い、外部への情報提供や高付加価値化志向者に向けての情報提供に活用していく。

#### 2 活動内容と結果

##### (1) 地域農畜産物による特産品開発支援

ア 遠別町での色素抽出用紫さつまいも栽培に対し、安定生産に向け、栽培法（施肥、採苗、キュアリング）に係る支援を行った（写真1）。

また、十勝管内視察研修にて、課題である採苗時の種いも温度管理、キュアリングや貯蔵施設での管理方法や北海道におけるさつまいも栽培の特徴がわかった（表1、表2）。

参加者からは「今後の栽培管理に役立つ情報が得られた」との声が聞かれた（写真2）。



写真1 色素抽出会社での採苗作業  
(令和4年6月16日)



写真2 十勝管内視察研修  
(令和4年7月6～7日)

表1 視察研修の概要

<p>〈参加者〉 生産者、色素抽出会社、上川農試、 上川技術普及室、振興局担当者、 地域係担当者</p> <p>〈研修内容〉 ① 試験研究機関 北海道におけるさつまいも栽培の 有利性、育成品種など ② 現地事例調査 採苗技術（萌芽前の温度管理、か ん水のタイミング・量など）</p>
---

表2 北海道におけるさつまいも栽培の特徴

- ① 害虫が少なく、防除をほとんど必要としない
- ② 乾物率・でん粉含量が低い
- ③ 糖含量が高く、食感は粘質になりやすい
- ④ アントシアニン、ポリフェノール含量が高い

表3 遠別町における紫さつまいもの需要量

- ① 色素量 3トン/年
- ② 基準色価 183.66u/g
- ③ 必要原料量 27.3トン/年
- ④ 作付面積目標 1.8ha(反収1.5トン/10a)

(令和4年10月20日実需者より聞き取り)

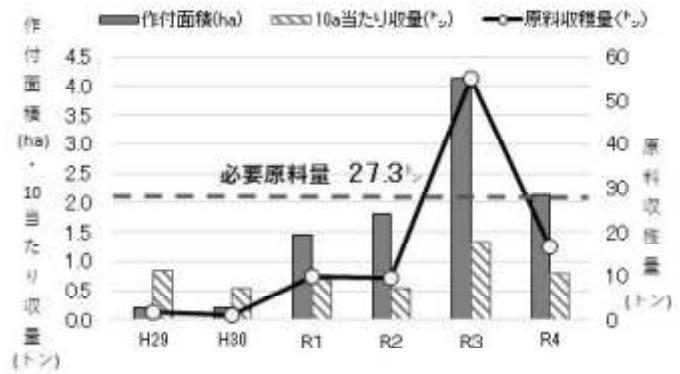


図1 紫さつまいも作付面積・10aあたり収量、原料収穫量の推移(平成29～令和4年)

植え付け苗の供給不足による作付面積の減少、土壌病害の発生や8月上旬の多雨により原料収穫量は16.8トンと低収だった(表3、図1)。

関係機関との意見交換会にて、紫さつまいもの安定生産に向けた今後の課題について検討を行った(写真3)。

その結果、今後の課題は健全な種苗確保のための種いも管理、病害対策とし、生産者と関係機関で共有できた。

また、遠別町の色素抽出会社では赤シソ、赤キャベツ、紫さつまいもなどの色素抽出後残渣を廃棄しており、資材メーカーと共同で機能性食品への利用を模索している(表4)。

この状況を受け、天塩町の養鶏業(平飼い)開業を支援している地域係から要請があり、色素抽出会社に色素抽出後の残渣を家畜飼料として利用することを提案した(写真4)。

さらに、地域係と連携し、未利用資源の活用を目的に家畜飼料の試作を行った(写真5)。

この活動により色素抽出後の残渣が副産物飼料としての可能性があることが確認できた。



写真3 関係機関との意見交換会  
(令和4年10月19日)

表4 色素抽出残渣品目等一覧

品目	時期	残渣量/年
赤シソ	8～10月	3ト
紫さつまいも	10～11月	25～50ト
赤キャベツ	11～3月	120ト

(令和4年9月7日色素抽出会社聞き取り)



写真4 抽出残渣の飼料化を提案  
(令和4年9月7日)



写真5 家畜飼料の試作品づくり  
(令和4年11月22日)

イ 高付加価値化志向者の取り組み支援は、羽幌町の高付加価値化志向者のキッチンカー(移動販売)の開業に向け、地域係と連携し、支援を行った(表5、写真6、写真7)。

その結果、キッチンカー開業の事業計画の樹立に至った。

表5 主な支援内容

- ・6次産業化支援機関(北海道6次産業化センター、旭川産業創造プラザ)の情報提供および連携支援
- ・営農ナビを活用した経営シミュレーションの作成および検討
- ・上川管内の先進地事例の視察



写真6 営農Navにて経営内容を  
検討(令和4年8月8日)



写真7 先進地視察研修(名寄市)  
(令和4年8月18日)

ウ 地域特産品の継承機会の創出について

遠別町「花の里」の「花だんご※1」は令和元年に会員の高齢化により製造が中止された。そこで、令和3年に「町の伝統を受け継ごう」と遠別農業高校でのプロジェクト活動をきっかけに同好会活動による技術継承が行われている。

今年度、留萌振興局農務課及び広域主査と連携し、管内4H連絡協議会の米粉加工研修会にて、高校生より青年農業者へ技術伝達が行われた（写真8）。

※1「花だんご」：もち米とうるち米を混合した米粉が原料のぺこもち。  
遠別町産のもち米をPRするために考案された。



写真8 「花だんご」加工研修会  
(令和5年2月14日)

(2) 魅力ある農畜産物の生産支援

ア 商工業者ニーズの把握と農業者の連携支援は、留萌市の青果業者と農業者とのマッチング支援を行った（表6）。

青果業者から、取引内容（出荷規格、出荷時期・量、輸送手段等）を聞き取りを行い、農業者から取引の了解を経て販売に至った（写真9）。また、いちごの加工品の試作検討も行った（写真10）。



写真9 青果業者との打合せ  
振興局と連携(令和4年9月21日)

表6 青果業者と農業者とのマッチング内容

市町村名	区分	農産物名	加工品(予定)
羽幌町	青年農業者	いちご(規格外)	ピクルス
遠別町	直売グループ(2名)	野沢菜	古漬け



写真10 いちご(規格外)のピクルス

【農業者および青果業者の声】



青年農業者

自家用にするか処分するしかない未熟ないちごを買い取ってもらうことができて助かった。  
販売先を開拓中なこともあり、つながりができたことも良かった

管内産の農産物を使うことによって、ストーリー性のある商品にしたい。  
地域の農業者の方々とのつながりを広げていきたい。



女性農業者

今回、全量買い取りしてもらえたので、非常に良かった。私たち農業者は売り先が確保できないと栽培できないので、今後も、このような話であれば、安心して野菜を作ることができる。



青果業者

イ 新たに取り組む農業者への支援は、普及センターが生産グループと地元スーパーとの連絡調整等の支援を行い、地元スーパーにて販売した（写真11）。

次年度以降、地元スーパーでの販売は直接取引から仲介業者を通じた販売となるため、価格や流通方法等の検討が必要となる。

生産グループでは所得補完作物として「ねばりながいも」の栽培面積を増やす意向があり、労働力や販路の確保が課題となっている（写真12）。



写真11 地元スーパーで「ねばりながいも」販売(令和4年11月13日)

羽幌町の「ねばりながいも」は毎年販売を待っている固定客がついている。  
入荷したら、すぐに売れてしまい完売状態。  
味が濃く、甘いという評判が良い。  
販売が継続できるよう努力させてもらいたい。



地元スーパー  
店長より



写真12 ながいも収穫作業  
(令和4年10月29日)

### (3) 高付加価値化事例の収集

ア 高付加価値事例の収集は、小平町「みどりの郷」の加工販売品の原料となる自家農産物へのこだわりや今後の目標について情報の整理ができた。

また、事例の更新（5件）を行い、現場での聞き取りにより新商品の開発や販路の拡大に意欲的な実践者もいる一方、高齢化により活動継続が難しくなっている現状を把握した。

イ 外部への情報提供は、広域主査と連携し、留萌管内若手女性農業者研修会にて、管内の取組事例や加工品の紹介を行い、高付加価値化活動をPRした（写真13）。

ウ 留萌管内農産等加工室の調査を行い、地域の農畜産物加工機材、その利用状況を把握及び整理し、高付加価値化志向者への情報提供に活用する（表7、表8、写真14）。



写真13 若手女性農業者加工研修会にて、事例紹介  
(令和4年11月28日)

表7 農畜産加工施設調査施設数

市町村名	留萌市	増毛町	小平町	初山別村	遠別町	天塩町	合計
調査数	1	2	2	1	1	2	9

主な加工品: 麴、味噌、豆腐、パン、トマトジュース、アイスクリーム、乾燥野菜など

表8 営業許可取得業種一覧

市町村名	味噌	清涼飲料水	菓子製造業	アイスクリーム類	食品の冷凍又は冷蔵業営業
小平町①	○	○			
小平町②		○			
初山別村		○	○	○	
遠別町		○	○		○



写真14 留萌管内農産加工室機材設置状況確認  
(パンミキサー、オーブン)

## 3 今後特に参考となる事項

### (1) コロナ禍における販売方法について

新規事例の収集や商工業者からの聞き取りでは、コロナ禍において対面での販売が制限される状況が少なくないことがわかった。

調査では、管内「道の駅」で、自動販売機での加工品の販売により、販路の拡大や無人販売による雇用費の削減、24時間営業による販売時間の増加に取り組む事例がみられた。

新たな販売方法を定着させるには、SNS等による情報発信や集客が見込める場所での設置などPRを積極的に行うことが必要である。

## 4 今後の対応

### (1) 地域農畜産物による特産品開発支援

色素抽出用紫さつまいも栽培は、基本的な栽培技術の確認および実需者が求める品質などが整理できた。今後は採苗および病害対策に向けた種いも管理の栽培技術の確立に取り組むため、本年度で高付加価値化の課題としての活動を終了し、次年度より地域係で対応する。

高付加価値化志向者の支援は、地域係と連携し、起業化および販路確保などの支援を行う。

地域特産品の継承機会の創出は、令和3年度に動画にて加工技術の記録・保存を行った。

また、遠別農業高校での同好会活動にて「花だんご」の技術伝承・レシピ作成、高校生から地域農業者への技術伝達が行われたため、本年度で活動を終了する。

### (2) 魅力ある農畜産物の生産支援

「ねばりながいも」の支援については、関係機関の理解を得て、生産販売の道筋ができたことから、本年度で活動を終了する。今後は、その他の魅力ある農畜産物の掘り起こしを継続し、地域係と連携して生産販売活動を支援する。

### (3) 高付加価値化事例の収集

管内の高付加価値化事例は、今後も継続して活動内容の更新と新規事例等の情報の蓄積に努める。また、各事例の要望に沿う支援を行う。

### Ⅲ 普及業務実績

#### 1 農作物生育調査

対象地域	対象作物	調査地点数	備 考
苫前町	水稲 秋まき小麦 春まき小麦 大豆 牧草 飼料用とうもろこし	2 か所 2 1 1 2 3 2	公表 1 参考 1 参考 2 公表 1 公表 2 参考 3 参考 2
羽幌町	水稲 秋まき小麦 大豆	2 1 1	公表 2 公表 1 公表 1
初山別村	水稲(もち) 秋まき小麦 春まき小麦 大豆	1 1 1 1	公表 1 参考 1 参考 1 公表 1
遠別町	水稲(もち) 秋まき小麦 春まき小麦 牧草 飼料用とうもろこし	1 1 1 2 1	公表 1 参考 1 参考 1 参考 2 参考 1
天塩町 天塩町	牧草 飼料用とうもろこし	2 2	公表 2 参考 2
増毛町	水稲 りんご	3 2	公表 1 参考 2 公表 2
小平町	水稲 秋まき小麦 大豆	2 1 1	公表 1 参考 1 公表 1 参考 1
合計調査地点数		40 か所	

#### 2 病虫害発生予察

対象地域	対象作物	調査地点数	備 考
苫前町	水稲 秋小麦 大豆 大豆	1 か所 1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
羽幌町	水稲 秋小麦 大豆	1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査
初山別村	水稲 秋小麦 大豆	1 か所 1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施 巡回調査
遠別町	水稲 秋小麦	1 か所 1 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
留萌市	水稲	—	現況調査実施
増毛町	水稲 りんご	1 か所 2 か所	巡回調査、現況調査実施 巡回調査、現況調査実施
小平町	水稲	1 か所	巡回調査、現況調査実施
合計調査地点数		16 か所	



### 3 試験展示ほ・実証ほ

対象地域	対象作物	設置主体	備 考
苫 前 町	小 豆	上川農試、普及センター	優良品種決定現地調査
羽 幌 町	水 稲 水 稲 水 稲 秋まき小麦 大 豆 大 豆  大 豆 てんさい 大 豆	開発肥料株式会社、普及センター 普及センター、上川農試 普及センター 上川農試、普及センター 上川農試、普及センター JAるもい、ホクレン留萌支所、 ホクレン肥料㈱、普及センター JAるもい、上川農試、普及センター JAるもい、ホクレン留萌支所、 普及センター	珪酸質資材施用による収量・品質調査 粳米湛水直播施肥試験 密苗栽培における栽植密度の検討 優良品種決定現地調査 優良品種決定現地調査 優良品種決定現地調査 前作効果を利用したダイズ畑でのリ ン酸減肥実証・展示 穿孔暗渠機・広幅型心土破碎機による透排水性改善効果調査 土壌診断に基づく施肥の適正化及び緑肥後作のカリ減肥の実証・展示 土壌処理除草剤の効果確認
初山別村	水 稲	上川農試、普及センター	糯米湛水直播栽培の現地適応性調査
遠 別 町	水 稲 畑 作	上川農試、普及センター JAるもい、上川農試	水稻優良品種決定現地調査 穿孔暗渠機・全層心土破碎機による 透排水性改善効果調査
留 萌 市	水 稲	上川農試、普及センター	水稻優良品種決定現地試験
増 毛 町	果 樹  果 樹	増毛町果樹協会、増毛町、JAるもい増毛支所 留萌振興局農務課、普及センター 増毛町果樹協会、JAるもい増毛支所、増毛町、 病虫害防除所、中央農試、上川農試、普及センター	果樹生育状況調査  果樹害虫発生状況調査
合計設置件数		16 件	

#### 4 その他（土壌診断等）

##### (1) 土壌診断

###### ア 簡易分析（pH、EC）

対象地域	対象作物	点数
苫前町	水稲床土・畑作物・野菜	39 点
羽幌町		50 点
初山別村		9 点
遠別町		0 点
天塩町	牧草・飼料作物・畑作物	0 点
増毛町	水稲・畑作物・野菜・果樹	9 点
留萌市	水稲・畑作物・野菜・花き	6 点
小平町		1 点
合計		114 点

###### イ リン酸、塩基等

対象地域	対象作物	分析機関	助言点数
苫前町	水稲・畑作物・野菜	ホクレン分析センター	処方箋作成 0 点
羽幌町	水稲・畑作物・野菜・牧草	ホクレン分析センター	28 点
初山別村			10 点
遠別町			0 点
天塩町	牧草・飼料作物	ホクレン分析センター	20 点
増毛町	水稲・畑作物・野菜・果樹	ホクレン分析センター	19 点
留萌市	水稲・畑作物・野菜		4 点
小平町	水稲・畑作物・野菜		3 点
合計			84 点

#### IV 普及活動成果のPR実績

##### 1 PR実績一覧

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
1	7月15日	<p>「生産技術普及の成果説明」</p> <p>令和4年度留萌振興局地域農業づくり懇談会が、12日午前10時からるもい農業協同組合本所で開かれ、留萌農業改良普及センターの農業生産技術普及活動の成果などが紹介された。同センターの普及活動成果などを情報提供し、普及活動への意見を聞く場として開催。農業生産者や外食関係者など約20人が参加した。同センターの職員3人が普及活動について報告した。参加者からは、留萌管内の他のTMRセンターとも情報を共有してほしいなどの意見が聞かれた。</p>	日刊留萌新聞
2	7月2日	<p>「病虫害防除で講義」</p> <p>留萌農業改良普及センターでは、6月下旬、JAるもい本所などで「るもい農業基礎ゼミナール耕種コース」第2回を開いた。管内の新規就農者や後継者ら担い手農家8人が参加した。農事組合法人みなくるファームの水田で行った現地研修では、幼穂形成期を確認したり、虫網によるカメムシのすくい取り調査をしたりした。次回は9月を予定。</p>	日本農業新聞
3	7月3日	<p>「地域農業の多角化へ弾み」</p> <p>初山別村冬野菜研究生産組合の設立総会がこのほど村役場2階で開かれた。規約や事業計画などを決め、組合長に株式会社錦秋代表取締役の秋山哲也さんを選任。今後冬野菜の栽培技術研究を通じて、通年農業経営の確立、経営の複合化、新規農業者の育成・確保を目指すことにしている。</p>	日刊留萌新聞
4	8月13日	<p>「ICT農業に理解」</p> <p>遠別で草地管理普及促進研修会</p> <p>道、留萌地域農業技術支援会議主催の令和4年度ICT活用型草地管理普及促進事業に関する現場研修会が、3日午後0時半から遠別町農業振興センターなどで開かれ、参加者がドローン（無人小型航空機）の操作体験などを通じてICT（情報通信技術）を活用した農業について学んだ。</p>	日刊留萌新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
5	8月25日	「イチゴ高設栽培 意欲」 最北の農高である遠別農業高校園芸分会の2年生3人は留萌管内の羽幌町の水稲農家、村上一騎さんと早希さんと連携し、本年度から、水稲の育苗ハウス利活用として、イチゴの高設栽培を始めた。	日本農業新聞
6	9月17日	「酪農の魅力高校生にPR」 留萌振興局は14日、遠別農業高校1、2年生36人を対象に留萌農業見学ツアーを行った。2017年から実施し2年ぶり。るもい指導農業士・農業士会と連携し、多様な農業形態を見学した。	日本農業新聞
7	9月17日	「留萌の花親しんで」 留萌管内の留萌市と小平町の生産者で構成される、るもい花き生産組合と振興局は15、16日市内花店の協力で「るもいフラワーデイズ」を開いた。	日本農業新聞
8	10月13日	「AS I A G A P取得へ公開審査」 留萌管内遠別町の遠別農業高校は9月下旬の2日間、アジア版農業生産工程管理（AS I A G A P）認証に向けて公開審査を行った。生産科学コース3年生17人が、3度目の認証取得を目指した。	日本農業新聞
9	10月15日	「実りの秋を実感」 学校田で稲刈りなど体験 町教育委員会主催の地域学校協働活動「稲作体験（稲刈り）」が13日午前10時20分から古丹別小学校（山口清敏校長）の学校田で行われ、5年生7人が青空の下で黄金色の稲を刈り取った。この日は5月25日に自分たちで植えた「ななつぼし」の稲刈り作業と脱穀作業を実施。るもい農業協同組合青年部苫前支部（花井望睦部長）の部員や留萌農業改良普及センター職員ら5人が協力した。	日刊留萌新聞
10	10月16日	「職員ら防疫作業を体験」 留萌振興局主催の令和4年度家畜伝染病防疫演習が、14日午後1時半から小平町内で開かれ、同振興局の職員ら約30名が家畜伝染病発生時の防疫作業のノウハウなどを学んだ。この日は、留萌振興局農務課と農村振興課、留萌農業改良普及センター本所および南留萌支所のほか、るもい農業協同組合小平支所、小平町役場経済課の職員が参加した。	日刊留萌新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
1 1	11月11日	<p>「体験学習の成果まとめる」</p> <p>苫前小学校（熊倉一弘校長）の稲作発表会が、8日午後1時20分から同校で開かれ、児童が1年間の稲作体験学習の成果を披露した。このうち、苫前小の5年生15人は、るもい農業協同組合青年部苫前支部（花井望睦部長）の部員や留萌農業改良普及センター職員など、地域の農業関係者の協力を得て種もみまきをはじめ、田植え、生育調査、稲刈りや脱穀などを体験してきた。</p>	日刊留萌新聞
1 2	12月2日	<p>「地元産素材でパン作り」</p> <p>留萌振興局主催の「アグリ女子のわいわい加工研修会」が、11月28日午前10時から都市農村交流施設ゆうゆうそう（夕遊創）で開かれた。留萌管内の若手女性農業者らが、地元産素材を使用したパン作りなどを通じて交流を深めた。この日は管内8市町村の農業女子6人が参加。留萌農業改良普及センターの安田美香さん、田中理恵さんが講師を務め、前半は加工研修、後半は栽培研修を実施した。</p>	日刊留萌新聞
1 3	12月24日	<p>「取り組み発表通じ情報交換」</p> <p>留萌管内4Hクラブ連絡協議会（秋山直人会長）、留萌振興局、遠別農業高校（織井恒校長）共催の令和4年度留萌管内青年農業者会議「ファーマーズトークinRumoi」が12、13の両日、同校体育館で開かれた。参加者が取り組み発表を通じ地域農業を考える濃密なひとときを共有した。</p>	日刊留萌新聞
1 4	1月18日	<p>「直播栽培米を味わって」</p> <p>留萌振興局は、直播栽培米「えみまる」の知名度向上などを目的に、留萌合同庁舎4階の食堂「キッチンRuRu」で使用する全メニューの白飯を「えみまる」に代えて提供するPR事業を19日に実施する。</p>	日刊留萌新聞
1 5	1月20日	<p>「スマート農業に理解」</p> <p>るもい指導農業士・農業士会（木村茂会長）総会および冬季研修会が、17日午前11時から羽幌町中央公民館小ホールで開かれた。総会では、令和5年度事業計画などを決め、任期満了に伴う役員改選では木村会長を再選したほか、新会員2人の加入を報告。研修会ではスマート農業について学んだ。</p> <p>総会には、管内の指導農業士・農業士、来賓ら合わせて約50人が出席。</p>	日刊留萌新聞

番号	年月日	成果のPR内容	PR媒体
16	2月15日	<p>「農業青年が表敬訪問」</p> <p>今年1月26、27日の両日、札幌市内で開かれた令和4年度北海道青年農業者会議で各賞を受賞した留萌管内の農業青年5人が10日、留萌振興局を表敬訪問し、工藤公仁局長らに受賞結果を報告した。</p>	日刊留萌新聞
17	2月18日	<p>「遠別農業高校の生徒から「花だんご」製法を学ぶ」</p> <p>留萌管内4Hクラブ連絡協議会（歳桃健司会長）主催の冬期加工研修会が、14日午後1時から遠別農業高校（織井恒校長）2階調理実習室で開かれた。参加者が、同校の伝統技術継承同好会に所属する生徒から町特産品の餅菓子「花だんご」の製造方法を学んだ。</p>	日刊留萌新聞

## 2 農業雑誌等へ執筆・寄稿した内容

番号	年月日	農業雑誌名（農業技術書、新聞）	執筆、寄稿内容（題名）
1	2月	「農家の友」 4月号	<p>「農業女子のための機械研修会 ～スマート農業技術の体験」 農業女子の機械研修会を開催した。管内の若手女性農業者10名が参加し、農作業安全を中心とした、座学研修と自動操舵トラクターの運転やロボットトラクター、ドローンの操作等実技研修を行った。。</p> <p>本所 丸山専普が執筆</p>
2	11月	「農家の友」 1月号	<p>「留萌管内TMRセンター現地研修会で飼料高騰対策を議論！！」 苫前町・アグリランドで行われた現地研修会では、天塩、遠別、苫前の各TMRセンター構成員をはじめ、JA、普及センターからの参加があり、サイロ施設や収穫機械などを見学した。留萌の特色を活かしたTMRセンターのあり方を活発に論議した。</p> <p>本所 工藤主査が執筆</p>

### 3 地域農業技術支援会議の開催実績

開催日時	令和4年6月29日 令和5年3月13日	会場	留萌合同庁舎 Webによるリモート開催
会議の名称	地域農業技術支援会議（事務局会議）		
参集範囲	留萌振興局産業振興部農務課、上川農業試験場研究部生産技術G 上川農業試験場技術普及室、留萌農業改良普及センター		
概要	(1)年間スケジュールについて (2)令和5年度課題選定に向けた活動について (3)令和4年度要望課題の対応について		

開催日時	令和5年3月29日	会場	Webによるリモート開催
会議の名称	地域農業技術支援会議（4者会議）		
参集範囲	留萌振興局産業振興部長、上川農業試験場場長、上川農業試験場研究部長 上川農業試験場技術普及室上席普及指導員、留萌農業改良普及センター所長		
概要	(1)令和4年度留萌地域農業技術支援会議の取組実績について (2)令和5年度地域要望課題の対応について (3)令和5年度留萌地域農業技術支援会議地域関係者会議の開催について		



#### 4 農業改良普及推進協議会等の開催実績

##### (1) 本 所

開催日時	令和4年6月30日	会 場	J A る も い 会 議 室
会議の名称	オロロン地区農業担い手確保対策協議会 第1回幹事会		
参集範囲	羽幌町農林水産課長、羽幌町農業委員会事務局長、初山別村経済課長、初山別村農業委員会事務局長、遠別町経済課長、遠別土地改良区事務局長、北海道遠別農業高等学校教諭、J A る も い 常 務、農 業 振 興 部 長、青 年 部 長、女 性 部 長、J A る も い 初 山 別 支 所 長、J A る も い 遠 別 支 所 長、J A る も い 営 農 課 長、オロロン土地改良区事務局長、北海道中央農業共済組合留萌支所長、ホクレン留萌支所営農支援室、留萌振興局農務課、留萌農業改良普及センター 合計21名		
概 要	1 新規就農者支援対策事業の運用について		

開催日時	令和4年7月6日	会 場	J A る も い 会 議 室
会議の名称	オロロン地区農業担い手確保対策協議会		
参集範囲	羽幌町長、羽幌町農林水産課長、初山別村長、初山別村経済課長、遠別町長、遠別町経済課長、北海道遠別農業高等学校教諭、J A る も い 組 合 長、J A る も い 常 務、農 業 振 興 部 長、J A る も い 初 山 別 支 所 長、J A る も い 遠 別 支 所 長、J A る も い 営 農 課 長、留萌振興局産業担当部長、留萌振興局農務課長、留萌農業改良普及センター 合計16名		
概 要	1 新規就農者支援対策事業の運用について		

開催日時	令和5年3月17日	会 場	J A る も い 会 議 室
会議の名称	中留萌地区農業改良推進会議		
参集範囲	北海道指導農業士、重点地区農家代表、羽幌町・初山別村ピンクファイブ副会長、羽幌町農林水産課長、初山別村経済課長、遠別町経済課長、苫前町農政係長 J A る も い 営 農 部 長、 J A る も い 農 産 部 長、 J A る も い 酪 農 畜 産 部 長、留萌農業改良普及センター 合計 22 名		
概 要	(1) 留萌農業改良普及センターの体制について (2) 令和4年度の普及活動報告について (3) 令和5年度の普及活動について (4) 普及センターに対する意見要望 (5) 各町村および農協の農業関係施策などについて		

## 5 地域農業づくり懇談会の開催実績

開催日時	令和4年7月12日	会場	普及センター本所
会議の名称	令和4年度 留萌振興局 地域農業づくり懇談会		
参集範囲	るもい指導農業士・農業士会、道立遠別農業高等学校、(株)フィードアシスト 遠別、上川農業試験場技術普及室、留萌振興局農務課、留萌農業改良普及センター 合計22名		
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 農業改良普及センターの概要と活動体制</li> <li>2 令和3年度普及活動報告                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 羽幌町における重点普及活動</li> <li>(2) 天塩町におけるTMRセンター利用農家の生産性向上支援</li> <li>(3) 青年農業者組織の活性化支援（広域担い手）</li> </ol> </li> <li>3 令和4年度の活動計画概要</li> <li>4 意見交換                     <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 普及センターには、常に気軽に相談できる存在であって欲しい</li> <li>(2) 管内酪農は先進地と比べ、共同の意識が低い。共同の取り組みを広げる活動を願う</li> <li>(3) 自主的・積極的な青年がいる一方、いかに大人しい青年に自信を持たせるかを検討して進めて欲しい</li> </ol> </li> </ol>		

令和4年度 普及活動実績

令和5年3月

留萌振興局

留萌農業改良普及センター

(郵便番号) 078-4106

(住所) 苫前郡羽幌町南6条2丁目16番地4

(電話番号) 0164-62-1779

(ファクシミリ番号) 0164-62-2474